

## 2022年度 さくら日本語学院 自己点検・評価報告書

2023年3月報告

(期間：2022年4月1日から2023年3月31日)

日本語教育機関の告示基準の第1条第1項目第18条に従い、当学院に関する自己点検・評価を行い、報告書を作成した。尚、報告書の作成に当たり、点検・評価項目のリストは、日本語教育振興協会の「日本語教育機関のための自己点検・評価項目（改訂版）」（平成29年5月29日）に従った。

### 総括（達成状況、課題など）

- ・全員が1年次生となりお手本となる2年次の学生がいない中、学生部と担任を中心に生活のルール、学習計画・学習意欲について指導し定着ができています。
- ・地域交流については立花高校から職場体験の受入れや、地域の団体との文化体験、海岸清掃ボランティアなどコロナ禍で十分ではないが校外の方と接する時間が昨年よりとれた。
- ・学生と個人面談を増やし、学習や生活面の不安を取り除けるよう気をつけたい。
- ・今後は出席率の維持と将来の目標をしっかりと持ちN1又はN2を全員が取得できるように努めたい。

### 自己点検・評価項目リスト

A：達成している    B：一部達成している    C：改善が必要

1. 理念・教育目標		評価
1-1	理念・ミッション	A
1-2	教育目標	A
1-3	育成する人材像	A
1-4	理念、教育目標が社会要請に合致していることを確認している	A
1-5	理念、教育目標及び育成する人材像が教職員及び学生に周知されている	B
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>教育理念や教育目標及び育成する人材像の周知は教職員には張り紙等で周知されている。</p> <p>学生に対しては、学生のしおりを作成しているが、難しい日本語で書かれており、理解が難しい部分があると思われる。今後は簡潔に記載したものを配布・掲示するよう努めたい。</p>		
2. 学校運営		評価
2-1	日本語教育機関の公示基準に適合している【注】	A
2-2	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている	A
2-3	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営が行われている	A
2-4	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している	A
2-5	予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確である	A

2-6	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがある	A
2-7	学生、入学希望者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っている	A
2-8	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特設され、適切に対処している	A
2-9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が定期的、かつ、組織的に行われている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>学生管理部が設置されており、母国語が話せる職員が常設されている。</p> <p>また、週に1回と定期的に職員間の会議を行っており、運営や授業等の情報共有もされている。</p> <p>学生管理部や常勤のクラス担任が設けられており、学生からの相談や苦情等の対応もされている。</p>		
<b>3. 教育活動の計画</b>		
3-1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている	A
3-2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している	A
3-3	国内、又は国際的に認知されている熟練度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている	A
3-4	教育目標に合致した教材を選定している	A
3-5	補助教育、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している	A
3-6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている	A
3-7	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>担任や教務主任との話し合いを経て、クラス編成等を行っている。</p> <p>教材もクラスにあったものを担任が選定し、教務主任と決定している。</p>		
<b>4. 教育活動の実施</b>		
4-1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている	A
4-2	教員に対して担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している	A
4-3	開示されたシラバスによって授業を行っている	A
4-4	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している	A
4-5	理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っている	A
4-6	学生の自己評価を把握している	A

4-7	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている	B
4-8	特定の支援を必要とする学習者にたいして、その分野の専門家の助言を受けている	B
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>現在、個別の学習支援に関しては全て担任が行っており、特定の学習支援担当者は特設されていないため、学習者一人一人にかかる時間が少なくなっている。</p> <p>今後は教務主任や学校長を中心に協議しながら、適切に対応していきたい。</p>		
<b>5. 成績判定と授業評価</b>		
5-1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。また判定基準と方法を開示している	A
5-2	成績判定結果を的確に学生に伝えている	A
5-3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している	A
5-4	授業評価を定期的実施している	A
5-5	評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である	A
5-6	学生による授業評価を定期的実施している	A
5-7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員能力向上等の取組みに反映されている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>成績判定については明確な基準が示されており、その基準ののっとり、評価をしている。学生にも結果を通知している。</p> <p>授業評価に関しても、常勤・非常勤講師ともに授業見学をし、面談を定期的に行っている。</p>		
<b>6. 教育活動を担う教職員</b>		
6-1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている	A
6-2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している	A
6-3	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している	A
6-4	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組みをしている	A
6-5	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている	A
6-6	教員及び職員の評価を適切に行っている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>雇用に当たっては特に問題はない。</p> <p>教職員の研修は定期的に行っている。</p>		

7. 教育結果		
7-1	入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適正に管理している	A
7-2	修了・卒業の判定を適切に行っている	A
7-3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している	A
7-4	卒業生及び修了生の状況を把握している	A
7-5	卒業生及び修了生の状況を把握する為の取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>外部試験の結果等も通知書のコピーを取り保管している。</p> <p>卒業後も、進学先と連絡を取り合い、卒業生の状況を確認している。</p>		
8. 学生支援		
8-1	学生支援計画を策定し、支援体制を整備している	A
8-2	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限を明確化している。また、これらの者を学生及び教職員に周知している。	A
8-3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている	A
8-4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的にも実施している	A
8-5	住居支援を行っている	A
8-6	アルバイトに関する指導及び支援を行っている	A
8-7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている	A
8-8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入している	A
8-9	重篤な疾病や障害のあった場合の対応、および感染症発生時の措置を定めている	A
8-10	交通事故等の相談態勢を整えている	A
8-11	危機管理体制を整備している	A
8-12	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定め、避難訓練を定期的にも実施している	A
8-13	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知している	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>入国し日本で生活を始めるための住居、アルバイト提供、事故発生時の迅速な対応など、よくできている。また、年2回避難訓練、消火訓練を実施し緊急時への対応も実施している。</p>		

9. 進路に関する支援		
9-1	進路指導担当者を特定している	A
9-2	学生の希望する進路を把握している	A
9-3	進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある	A
9-4	入学時からの一貫した進路指導を行っている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;  進路指導担当者とは各担任で円滑に連携を取りながら、1年次の早い時期からクラス別、個別と学生の志望校合格へ向けた指導、準備ができています。</p>		
10. 入国・在留に関する指導及び支援		
10-1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている	A
10-2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている	A
10-3	出入国在留管理庁より認められた申請等取扱者を配置している	A
10-4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている	A
10-5	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している	A
10-6	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている	A
10-7	不法在留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っている	A
10-8	過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない	B
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;  現状資格外活動違反がないよう日々注意喚起を行っているが、今後違反者や不法残留者が出ないように、より厳格に指導を行っていくつもりである。</p>		
11. 教育環境		
11-1	教室内は、十分な照度があり、寒気がなされるとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている	A
11-2	授業時間外に自習できる部屋を確保している	A
11-3	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である	A
11-4	視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している	A
11-5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している	A
11-6	同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している	A
11-7	法令上必要な設備等を備えている	A
11-8	廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である	A
11-9	バリアフリー対策を施している	B

<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt; 各教室にすべて電子黒板を設置して授業のデジタル化に取り組んでおり、IT を利用した授業はよくできているが、建物の構造上、バリアフリー化できていない部分がある。</p>		
<b>12. 入学と募集と選考</b>		
12-1	理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を定め、年間募集計画を策定している	A
12-2	期間に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている	A
12-3	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている	A
12-4	海外の募集代理人(エージェント等)に最新、かつ、正確な情報提供をおこなうとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握している	A
12-5	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている	A
12-6	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認をおこなっている。 不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者(職員等)が面接などの調査を行うよう努めている	A
12-7	入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している	A
12-8	入学検定料、入学金、授業料、その他納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後に必要になる費用が明示されている	A
12-9	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt; 入学にあたっての募集代理人との円滑で正確なコミュニケーション、及び学費支払いについての案内ができている。</p>		
<b>13. 財務</b>		
13-1	財務状況は、中長期的に安定している	A
13-2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている	A
13-3	適正な会計監査が実施されている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt; 中長期的に安定した財務状況であり、予算の策定、収支計画についても滞りなく実施している。</p>		
<b>14. 法令遵守</b>		
14-1	法令遵守に関する担当者を特定している	A
14-2	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っている	A
14-3	個人情報保護のための対策をとっている	A

14-4	出入国在留管理庁、関係官庁、日振協への届出、報告を遅延なく行っている	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>日本語教育機関を運営するにあたって必要とされる法令を遵守し、各関係者への届出、報告を滞りなく行っている。また、教職員へのコンプライアンス意識の呼びかけ等を実施し、個人情報漏洩の防止等に努めている。</p>		
<b>15. 地域貢献・社会貢献</b>		
15-1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている	A
15-2	学生ボランティア活動への支援を行っている	A
15-3	公開講座等を実施している	A
<p>&lt;現状・具体的な取り組み、課題&gt;</p> <p>近隣の清掃活動などを通じて、地域に貢献も実施。</p> <p>オンライン授業を海外の日本語センターと協力して無償で実施し日本語能力の向上を目指している。</p>		